

1-IV 栄養状態の改善

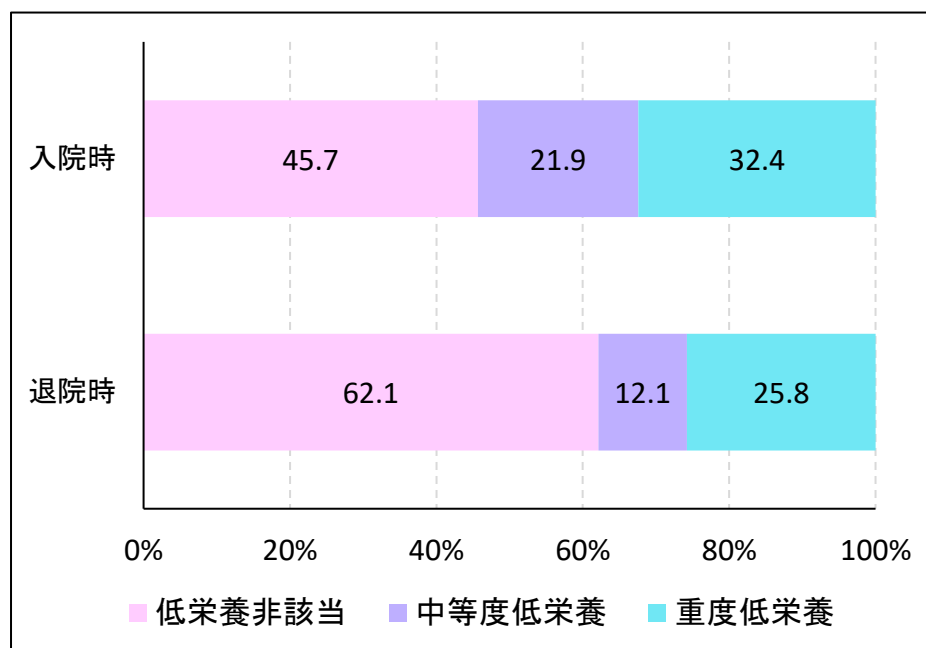
※回復期リハビリテーション病棟協会が2026年2月に発表した「回復期リハビリテーション病棟の現状と課題に関する調査報告書」内の全国平均値を、一部、当院の実績と比較しています。

①GLIM基準による低栄養の割合の変化 (n=784)

GLIM基準（Global Leadership Initiative on Malnutrition）は、低栄養を診断するための国際的な低栄養診断基準です。

当院の低栄養状態の方の割合は、入院時54.3%から、退院時37.9%に減少しました。

重症度別にみると、重度低栄養が入院時32.4%から退院時25.8%、中等度低栄養が21.9%から12.1%に減少しました。

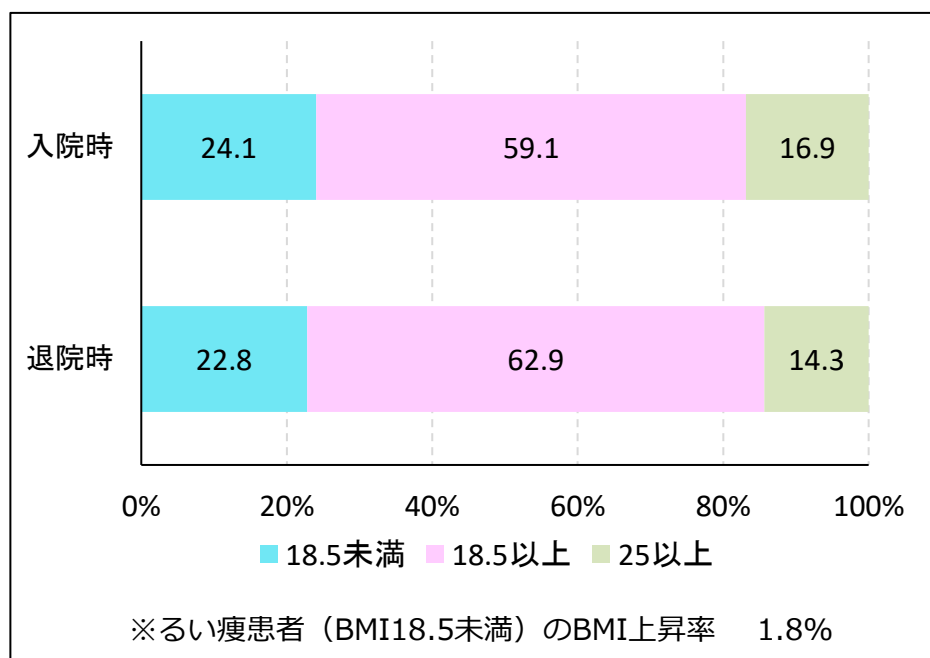


②BMIの変化 (n=789)

BMI（Body Mass Index：体格指数）が18.5kg/m²未満の痩（=やせ）の方の割合は、入院時24.1%から退院時22.8%に減少しました。

全国平均ではBMI18.5未満の方が23.1%から24.6%に増加しています。

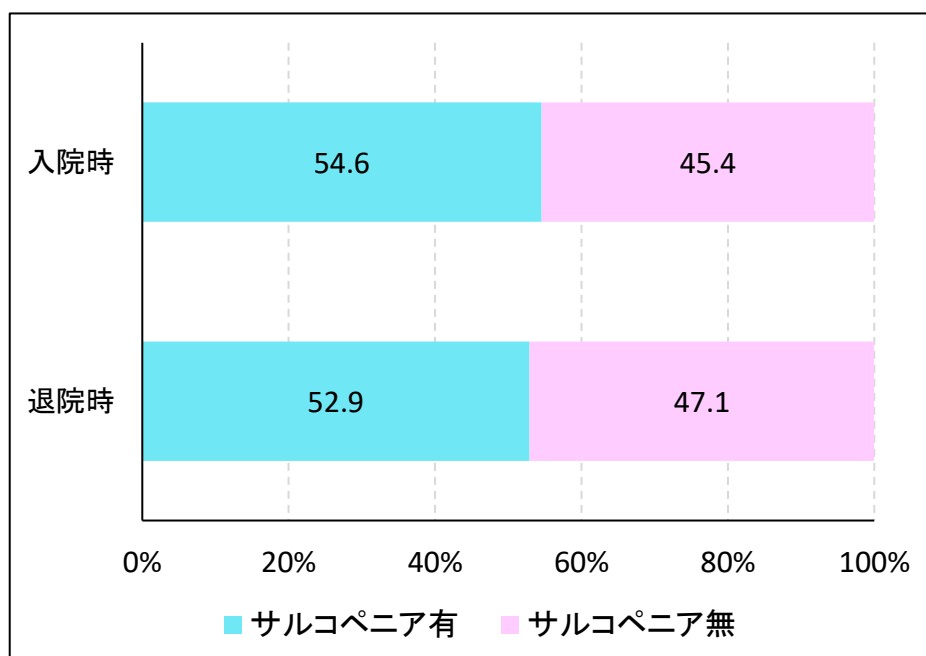
BMIが25kg/m²以上の肥満の方の割合は、入院時16.9%から退院時14.3%に減少しました。



③サルコペニアからの改善 (n=724)

サルコペニアとは、加齢や疾患などの影響により、全身の筋肉量の減少と、筋力低下、身体機能の低下のことを指します。早期に気づき、食事と運動で対策を行うことで進行を防ぎ、改善することができます。

サルコペニアの有病率は入院時54.6%から退院時52.9%に減少しました。



④入院患者の食事形態の割合 (n=785)

当院の食事形態は、常食は食形態の制限なし、軟菜食は常食より硬い食材を除いた食事、ソフト食は舌と上顎で潰せる固さの食事、嚥下食3はペースト状と弱い力で潰せる固形食が含まれる食事、嚥下食2はペースト状の食事としています。

食事形態の詳細として、ソフト食・嚥下食3・嚥下食2のカッコ内に日本摂食嚥下学会より発表されている嚥下調整食学会分類コード2021のコード分類を併記しました。

摂食嚥下機能の維持・向上により、常食・軟菜食でお召し上がりいただける方が入院時69.1%から退院時83.2%に増加しました。

